

自身がクライアントであっても円滑な援助遂行は可能か？

Self-care to a social worker by himself

○渡辺修宏¹・小幡 知史²

Watanabe Nobuhiro, Obata Satoshi

国際医療福祉大学¹, NPO 法人だいち放課後等デイサービス事業所樹の子クラブ²

International University of Health and Welfare, NPO Daichi After-school day service KINOKO Club

Key words: Social worker, self-care, behavior analysis

目的

本研究の目的は、援助者自身もつ援助ニーズに対して、その援助者自身が考案した援助方略の過程を検討することであった。

方法

参加者 本研究の参加者は、住宅型有料老人ホームで働くソーシャルワーカーAの1名であった。Aは、介護福祉士を取得している20代の男性で、身長171cm、体重138kg、BMIは47.19であった(適正体重より+73.67kg)。

Aが所属するホームではホスピス(看取り)を行っているため、難病、末期、がん性疼痛、人工呼吸器装着、胃ろう管理、中心静脈栄養などの、いわゆる医療必要度が高い利用者が少なくなかった。したがってAは、極めて個別性の高いソーシャルワーク、ケアワークの実践を求められ、「如何にきめ細かく適切な援助ができるか」という強いモチベーションをもって業務にあたっていた。しかしAは、自身のよりよい援助実践を妨げる事由を抱えていた。それは肥満であった。Aは、自身の過体重が容易に息切れ、疲労を招き、それらのみならず、援助実践にかかわる思考や判断力を低下させていると感じていた。その意味で、Aは自身のより良い援助実践のためには、肥満解消は必要不可欠と考えていた。そこでAは、肥満解消を試みるために、自身の生活環境や状況を考慮して、セルフケアプログラムを設計した。筆者らは、そのプログラムの内容を確認するとともに、その経過を記録する役割を担った。

期間 本研究は20XX年4月から約3年間に渡って実施された。

手続き ベースラインとして、Aは毎日夕食後に自宅体重計にのり、その測定結果を1ヶ月間に渡ってSNSで筆者らに報告した(ベースライン期)。

本研究における独立変数は、A自身考案の介入条件であったが、実施前に筆者らがその内容を確認した。従属変数は、先に述べたA自身による体重測定とその報告行動(体重測定後に筆者らにその数値をSNSで報告すること)であった。

倫理的配慮 本研究は、筆者らに対する参加者からの協力希望によって企画され、筆者らおよび参加者で協議さ

れた手続きによって行われた。また、参加者は、いつでも自由に研究参加を辞退することができた。

結果と考察

ベースラインを測定した後、A自身が考案した「夕食ではご飯類・麺類を摂取しない」を開始した(介入1)。なお、Aの夕食はAの母親が用意していたので、母親の協力を得た。更に2ヶ月後、付け加えてA考案の「飲料水は水、お茶、珈琲のみとして加糖類はとらない」を実施した(介入2。A所属先のホームの協力を得た)。それから半年後、Aの体重は、Aが当面の目標としていた121kgとなった。Aと筆者らはこの時点で協議を行い、Aの希望により「今後は自身ひとりでセルフケア(徐々に減量)を行う」こととした。

それから3ヶ月後と6ヶ月後に筆者らがAに経過を尋ねると、体重はほぼ変動していなかった。そして、Aはセルフケアの維持を希望した。

さらに3ヶ月後、Aの体重は130kgとなっていた。しかしAは「夜勤が増え、夜間時の食事摂取量が増えたのが原因。状況を把握しているので対応できる」と、やはりセルフケアの維持を希望した。

それから6ヶ月後、Aの体重は141kgとなり、職場の健康診断によって精密検査を指示された。そこでAは、再び筆者らと協議した。Aは介入1および2を継続していたが体重が減少していなかったため、新たに、13種類の行動項目を設定し、できるだけそれらを毎日行うこととし、また、それらの達成を記録するセルフチェックシートを作成した(介入3)。そして再び、毎日の体重報告行動を再開させ、同時に行動項目の達成状況もあわせて報告させた。そして、月に1回、セルフチェックシートを筆者らに提出した。その一年後、Aの体重は129kgまで減少した。しかしその後、Aの報告行動が減少し、伴って体重もゆるやかに上昇し、半年後には134kgとなった。

援助経験に慣れた援助者であっても、自身がその対象となるセルフケアとなれば、必ずしも円滑な援助過程が成されるわけではないと考えられる。そしてそのような状況は、他者を介さない機会、期間、場面において起こりやすいのかもしれない。